

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870400227
法人名	医療法人 青峰会
事業所名	グループホーム 夏みかん
所在地	愛媛県八幡浜市八代45番地
自己評価作成日	平成28年8月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

明るく健康で楽しく過ごしていただけるよう、健康管理とキッズくじらと合同で行うレクリエーションに力を入れている。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年8月18日

管理者は、今年度、市主催の「地域密着型サービス連絡会議」の会長として会議運営に協力をしている。5月の法人の祭りには、市社協からボランティアを紹介してもらい、利用者全員が祭りに参加できた。毎日、利用者が居間にあるボードに献立を記入しており、ボードをみて食事を楽しみにする利用者がある。食材は、近所のスーパーや商店から配達してもらっている。利用者はゴボウのさがき等、野菜の下ごしらえを行えるよう支援している。食事前には、利用者の一人の方にあいさつをお願いしており、皆で「いただきます」と言ってから食べ始めていた。職員は、利用者と同じものを同じテーブルで食べながら、味付け等について感想を聞いていた。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等がサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム 夏みかん

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

河野 修照

評価完了日

28 年 8 月 3 日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「認知症であっても、一人ひとりが地域にとけ込んで、当たり前暮らしながら人間の尊厳を大切に生きていく」ことを理念とし、入居者様の意志を尊重しその人らしく生活できるように利用者個々に支援している。	
			(外部評価) 玄関・居間に理念を掲示し職員がいつでも確認できるようにしている。法人にグループホームが新設し、管理者をはじめ、職員の大幅な異動があった。管理者はこの機会を活かして、理念を基にした新しい取り組みを検討している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 天気の良い日や体調が良ければ、ホーム周辺を散歩したり、食材の買い物や地域行事には、できるだけ利用者とお出掛けして、地域の方々と触れ合う機会を作るようにしている。	
			(外部評価) 散歩時に近所の方へのあいさつを心がけているが、地域行事や町内会活動への参加までに至っていない。管理者は、地域との関係づくりが以前からあまり進んでいないと感じており、現在、中学校長にボランティアや交流会を行えるよう相談している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議や夕涼み会にお誘いするも、なかなか参加して頂けず積極的には貢献出来ていない状況であるが、今後も地道に働きかけていきたい。去年は夏みかん祭りと題した夕涼み会を開催し、チラシを配って参加して頂き地域の方々と触れ合える様に工夫した。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者の現状、レクリエーションと一緒に参加して頂き、活動・研修報告などを通して出席者の方々からの意見を職員に伝え、サービス向上に活用するようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>家族、保健センター職員、さわやか相談員である地域の方の参加がある。今年度は、参加者の知人の参加があった。会議時には、運営状況や行事報告を行ったり、利用者と一緒にミュージックケアを体験してもらい、意見をうかがったこともある。管理者は、会議の機会を捉えて地域の関わりを深め、「ボランティアを積極的に受け入れたい」と話していた。さらに、地区の民生委員にも参加依頼を考えている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入退居時や介護認定更新の際の情報共有、市の地域密着型サービス連絡会議に参加し、運営について相談したり、助言をもらいながら連携を図っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>管理者は、今年度、市主催の「地域密着型サービス連絡会議」の会長として会議運営に協力をしている。5月の法人の祭りには、市社協からボランティアを紹介してもらい、利用者全員が祭りに参加できた。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>職員は、研修や法人の勉強会で身体拘束について理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は夜間のみ施錠(防犯・安全の為)それ以外の時間帯はドアチャイムを設置し出入りを感知出来るようにし、施錠せず見守りを行っている。事故予防の為ですが身体拘束となる案が出て代替を再検討し、身体拘束しないケアに努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>法人学習会で身体拘束や虐待について勉強をしている。ベッドからの転倒の心配がある利用者については、職員で話し合い、夜間のみセンサーを付けたり、ベッドの高さを下げマットを敷く等して対応している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修や法人の勉強会で虐待の定義や規定に関して学んでいる。入浴時や更衣時には全身状態を確認するようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度について研修会で学んだ職員はいるが、十分とは言えないので勉強会を行い、話し合う必要がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居契約時には、契約書に沿って、相手の立場に立って丁寧に分かりやすい言葉で説明し、理解や納得を得るように努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族にアンケートを送ったり、苦情相談箱の設置、ケアプラン更新時、さわやか相談員の訪問等、利用者やご家族が意見や要望を気軽に言ってくれるような関係作りを心掛けており、スタッフ会で取り上げ運営に反映させている。 (外部評価) 事業所便り「てやてや便り」と、個別の便りを作成して家族に利用者の暮らしぶりについて報告を行っている。懇談会時は、各居室で家族に近況報告を行い、質問や要望はないか聞いている。法人が行う家族アンケート結果を受け、「家族に外出支援についての報告を充実させたい」と話していた。今年度は、9月の敬老会開催時に家族会を行う予定がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			半期に一度、管理者面接や月に一度のスタッフ会で意見交換を行っている。普段から何でも相談出来る雰囲気作りに努めている。	
			(外部評価)	
			法人の方針で、職員は法人内事業所で異動がある。管理者は「焦らず、個々のペースで仕事をしてほしい」と職員に声をかけている。年1回、法人から職員の親睦のための費用が支給されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			法人内で人事考課表を取り入れ、努力や実績、及び勤務状況などを把握して職員の評価を行っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			講習や研修の希望者を優先して、職員個々に必要だと思う講習や研修を順次受けるように勧めている。年に1回は研修費・交通費等の補助金制度があり、業務での研修参加できる。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			GH連絡協議会、地域密着型サービス協会に参加し、他事業所との意見交換や情報交換を行っている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			本人の希望や思い、不安や不満、人生観を傾聴し、不安を軽減し安心して過ごせるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	家族の意向や思いを聞いた上で、本人にどのような対応ができるかを説明している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)	家族や本人の希望をよく聞き、必要なサービスに繋げるようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価)	家事(食器洗い、掃除、洗濯物たたみ等)、できる範囲で協力して頂き、共同生活を営んでいる。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価)	面会時や電話があった時には近況を伝えている。また、毎月の行事を送付状でお知らせしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価)	知人や友人が面会に来られた時は、居室に招き、お茶を飲みながらゆっくり過ごせるよう配慮している。本人の行きたい場所(自宅等)外出支援を行っている。	
			(外部評価)	「友人に会いたい」「自宅に帰りたい」と希望があった場合は、家族に連絡して予定を確認して本人の希望に沿った支援を行っている。友人が訪ねて来た際には、居室に案内し、様子をみながら日頃の活動の様子を伝える等して話題提供をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 1日2回のお茶の時間には、皆揃ってゆっくり話をして過ごしている。入居者様は一人一人心身の状態が違っているので、理解したり、仲良く過ごせるよう職員も間に入り支援している。入居者様の間に入り、話の架け橋や交流出来る様に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所された方が病院や他施設に行った時など、顔を見て話をするよう心掛けている。移動先への申し送り問い合わせには詳しく答えている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の身体状況、性格、考え方を考慮し本人の希望に沿える支援を心掛けている。介助を必要とする方に心理的負担をかけないように心掛けている。一人一人の話を聞き、居心地良く生活出来る様にご家族様へも聞き取り参考にする。	
			(外部評価) 入居時に、利用者の基本となる情報をフェースシートにまとめている。職員は「利用者の話をゆっくり聞き、グループホームで対応できることがあれば想いを叶えてあげたい」と話していた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に面談をし本人、家族から基本情報や、趣味、好み、これまでの暮らしを聞き、どのような生活を送りたいか？希望など把握するよう努めている。ケアマネや主治医から情報ももらう。自宅訪問の機会をつくる。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 本人の能力、希望、心身状態を日々の介護記録と申し送りにより職員全員が把握し、できること、できないことを、見極める。一人一人のペースを大切に無理の無い様に自立を促している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 日々の観察、記録、話し合いの中で課題を把握しスタッフ会でケアの方向性、実施事項を決める。随時、家族に状態報告、相談を了承して頂く。医療機関には身体状態について指導、アドバイスをして頂いている。本人、家族の希望を聞き介護計画書を作成している。</p> <p>(外部評価) 利用者・家族、職員・医師の要望や意見をまとめ、ケアマネジャーが計画を立案している。計画は、3ヶ月に1回評価し、見直しを行っており、状態の変化があった場合は、その都度計画の変更を行っている。日々の介護記録には、医師からの指示は赤字、家族とのやり取りは青字に決め、見やすいように工夫している。</p>	<p>介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげていってほしい。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個人記録にはケアプランを記載しケアプランに沿った支援ができたか？記録するようになっていく。職員間の申し送りや情報を共有し改善に努めている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) グループホームの機能の中で安全を確保し穏やかな生活を送れるよう支援している。利用者のニーズに対応し健康管理、レクリエーション、外出、買い物等を行っている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 毎月のミュージックケア・出張散髪を利用したり、地域やグループの催物に参加している。学生の体験学習の受け入れ、消防署の協力による避難訓練、出来る限りボランティアの受け入れを行い楽しむ事が出来る様に支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入居時、ホームの提携病院の医師が、かかりつけ医となり、随時往診していただいている。他病院への受診も、本人、家族の希望に応じて行われており、必要があれば、職員による送迎介助もおこなっている。	
			(外部評価) 利用者個々に協力医療機関の往診を2週毎に受けている。職員は、利用者の体調で気になることがあれば医師に相談、報告している。法人系列病院の看護師が24時間対応で相談に応じている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 連携病院の看護師とは、24時間体制で連絡ができるようになっている。状態変化があれば、いつでも連絡して、相談したり、指示をもらっている。医療連携看護師は、週1回来所する。相談したり、アドバイスを貰うことができる。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 利用者様の入院の際には、安心して治療でき、早期に退院ができるよう、入院先の病院と、情報交換等を行うよう努めている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時より、重度化、終末期、看取りのあり方について、説明し、本人、家族の希望も、聞きとりをしている。かかりつけ医からも、本人の状態や、急変時の対応について、説明して頂いている。看取りに関するアンケートを実施し、家族の思いなど、確認している。状態の変化に応じて、時々、思いを受け止めて、話し合っていくことが必要だと考えている。。	
			(外部評価) 入居時には、今後想定される経口摂取困難、転倒、突然の呼吸停止等の対応についての意向を聞いている。入居に際して、協力医が利用者・家族から看取りの方向性を聞き取ってくれており、事業所で最期まで過ごすことを希望する方が多い。利用者の状態に応じて、その都度家族と相談して看取りを支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急対応マニュアルを、確認し、訓練に参加し、身につけることができるよう努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地域の避難場所を確認している。避難場所や方法について、職員全員で話し合いを行っている。年2回避難訓練を行っている。食料等の備蓄も備えている。災害時には、近所の方の協力が必要だが、つながりは弱い。	災害時に協力してほしいこと、又、協力できることを地域に発信して、地域との協力体制作りに取り組んでほしい。
			(外部評価) 夜間の火災を想定した避難訓練を利用者・職員で実施している。消火器やAEDの使用方法、消防署への通報・火災報知機、職員連絡網等を確認した。訓練を行い、スロープの距離が短く危険なことが分かり、現在、法人に改善を申請している。広域避難の場合は、松山と宇和島のグループホームが受け入れてくれることになっており、管理者が協力依頼の連絡を行っている。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 丁寧な声掛けを心掛け、入居者の方に不快な思いをさせないよう心掛けている。安全のため、プライバシーの確保が、充分に行えていないところもある。排泄時の声かけや確認は本人の近くに行き声のトーンに注意している。利用者様の居室に入る時にはノックや声掛けを行っている。	
			(外部評価) 管理者は、「家族が職員と利用者の会話を聞いて、恥ずかしい言葉遣いをする事」を職員に話している。入居時に、パンフレット等への写真の掲載の許可を取っている。職員は、入社時に法人から個人情報の取り扱いや守秘義務について説明を受けている。家族からの差し入れの梨をデザートに付けており、職員は本人にお礼を言っていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人がしたいと思っている事は、できるだけ支援できるようにと、職員同士で協力している。自分から思いを伝えることが難しい方には、表情などを良く見て、思いを汲み取ることができるよう、努めている。相手に合わせてゆっくりと話せる様になっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)	
			利用者の生活習慣を把握し外出、食事面など希望があれば業務の流れを変更し対応している。入居者様のペースを大切に支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価)	
			入浴や外出時には本人に衣服を選んで頂いている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価)	
			法人内のグループホームで統一した献立表を使用しているが好みや食べたい物の希望や苦手な料理があったり、誕生日等はその都度、変更している。利用者に応じて手伝いをしている。	
			(外部評価)	
			毎日、利用者が居間にあるボードに献立を記入しており、ボードをみて食事を楽しみにする利用者がある。食材は、近所のスーパーや商店から配達してもらっている。利用者はゴボウのさがき等、野菜の下ごしらえを行えるよう支援している。食事前には、利用者の一人の方にあいさつをお願いしており、皆で「いただきます」と言ってから食べ始めていた。職員は、利用者と同じものを同じテーブルで食べながら、味付け等について感想を聞いていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価)	
			毎日、食事量と水分量の記録をしている。摂取量が少ない時は、好みの食べ物や飲み物を提供している。濃い味付けとまらない様に注意している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価)	
			毎食後、口腔ケアの補助や声掛けを行い夜間に義歯洗浄を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) オムツを利用している方も日中はポータブルトイレを使用し便意、尿意を感じてスムーズに排泄して頂けるよう介助を行っている。排泄パターンを把握し声掛けを行い失禁を予防しオムツ、パットの使用を減らしている。</p> <p>(外部評価) 毎月のカンファレンスで、利用者個々の排泄支援のあり方について検討している。紙おむつを使用している利用者について、定期的にトイレに座る支援を行った結果、トイレで排泄できるようになったような事例がある。利用者の耳元でそっと声を掛けて、トイレまで誘導しているような様子が見られた。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 便の状態を排便表と個人記録に記入し便性を把握し、起床時にも水分を摂取して頂けるように支援している。排便障害の予防のため好みの飲み物を飲んで頂いたり、食物繊維の多い食材、発酵食品を食事に取り入れて予防している。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 1週間に2回の入浴で午前か午後に入浴して頂いている。好みのお湯の温度を把握し気持ちよく入浴して頂けるように支援を行っている。</p> <p>(外部評価) 利用者全員が浴槽で温まれるように支援している。深めの浴槽のため、職員は見守りや二人介助で支援を行っている。利用者の好みで入浴の順番、湯温や入浴時間の調整を行っている。個々のシャンプーやソープを使用して入浴できるよう支援している。浴槽は広く、仲の良い利用者同士で入浴することが多い。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 室温や居室の明るさなど個々に対応し安心して休んで頂けるように心掛けている。就寝時間は決めず眠くなったら、休んで頂けるようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価)	利用者様全員の、薬情報を、ひとつのファイルにまとめて、いつでも確認できるようになっている。職員は、薬の作用について、把握するよう努めている。薬は、服薬マニュアルに沿って、確実に内服されるよう、配置され、チェックしている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価)	その方の『出来る事』を見つけ、活動して頂いている。(新聞折り、洗濯物たたみ、食器洗い等、) 職員は、できる事を共に喜び、感謝の気持ちを伝えている。ホームでは、季節ごとの行事や、外出を計画している。季節ごとの行事も計画している。
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価)	買い物や、ドライブ、散歩などは、機会を見つけては、出掛けるように努めている。家族とよくドライブに出かけられ、楽しんで帰って来られる方もいる。気候の良い時期には、外気浴をしたり、近所を散歩している。家族の協力により、自宅へ帰ったり、墓参りをしたり、外食したりできる方もある。
			(外部評価)	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)	自分のお金を持つことの大切さはわかるが、共同生活でのトラブルが起きないよう、すべて、立替金で、処理している。本人の希望に応じて、お金を使えるように支援している。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)	家族や大切な人に、本人自ら電話が出来るように支援している。家族からの電話には、出て頂き、手紙などは、渡している。必要があれば、一緒に読んであげたりしている。今年は、季節ごとの便り等書くことが出来るよう支援したいと考えている。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 玄関に季節の花を植え、一緒に水やりをして育てている。みんなで、外でお茶をして、会話を楽しんだりしている。ホール内に、花を生けたり、窓や玄関ドアを開けて、外の風を入れたりしている。室内には季節を感じて頂ける様に壁画飾りや装飾で工夫している。</p> <p>(外部評価) 外出や行事・日常の様子を飾っており、家族との会話のきっかけにもなっている。目が見えにくい利用者が居室がわかるように、壁伝いに目印になる矢印を付けている。調査訪問日、居間でスイカ割りを行っており、利用者と職員の楽しそうな声がしていた。テレビの前には3人がけのソファが配置されており、時代劇を見ながら感想を話していた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ホール内にソファや椅子を置き、気の合った利用者同士で話をしたり、思い思いに過ごせるよう、居場所の工夫をしている。自分の決まった席があり、混乱しない様にしている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ベット以外は、用意してもらった様になっている。使い慣れた家具や、好きな物を持ち込み、自分らしい部屋にすることができる。</p> <p>(外部評価) テレビのリモコンを自分で操作できるよう、使い方を絵で示し貼っていた。家族が持ってきたクッションやぬいぐるみを抱いて寝ている方がいる。家族の写真が飾られていた。洋服が好きな利用者は、洋服をフックに掛けて、毎日コーディネートしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 歩ける方、車椅子の方も、自分で移動ができるように、動線の確保をし、危険のないよう気をつけている。ホールの周囲に手すりをつけている。居室には表札をかけ、ご自分の部屋だと分かる様にしている。</p>	